

令和7年度 学校評価のまとめ（最終版）

本年度の 重点目標	<p>生徒の個性や特性を踏まえ、すべての教育活動で「一人ひとりを大切に」した指導を徹底するとともに、生徒の自律と自立に向け、基本的な生活習慣を確立し、自ら気づき、考え、判断・決定し、行動できる力を身につけた人材育成を図る。</p> <p>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びや観点別学習評価の工夫等により授業改善を図るとともに、地域課題の解決に関する探究的な活動を通して、課題解決に必要な実践力を身につけさせ、郷土愛を醸成し、地域を支える人材を育てる。</p> <p>生徒の個性や特性を把握して共通理解を図るとともに、併設する豊橋特別支援学校山嶺教室職員とも連携し、教職員が「チーム」となって適切な支援を行う。</p> <p>生徒の進路意識を醸成し、個に応じた計画的な指導により、進路実現を目指す。</p> <p>コミュニティ・スクールと中高一貫教育を有効に活用し、地域と連携・協働した教育活動の一層の充実を図るとともに、ホームページや SNS を有効的に活用し、本校の教育活動や魅力を積極的に活用する。</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	田口高校の魅力を伝える広報と効果的な情報伝達の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ① SNS や HP 等の即時性のある情報発信の工夫 ② 田高だより（年回発行）の厳選した内容の掲載 ③ メール配信の効果的な活用法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ① より多くの情報について投稿ができるよう SNS の主担当者を総務部と学年で決め、連携して情報発信をする。 ② 田口高校らしさが伝わる見出しや写真など記事掲載を工夫する。 ③ 学校生活において、より有効的な情報配信の方法を検討する。
	<p>〔まとめ〕</p> <p>アンケート結果では、保護者・生徒の評価は学校からの SNS を活用した情報発信について約 8 割、教職員においては 10 割が即時性のある情報発信をしていると思う、少し思うという肯定的な評価がみられた。今年度は平均月 4～5 件のペースで更新を行ってきた。今年 12 月時点でのインスタグラムのフォロワー数は 370 強あり、卒業生、保護者、在校生、地元近隣企業や学校にフォローをしていただいている。今後も情報発信のツールとして新しい情報を届けていきたい。広報誌などを活用した情報発信については、昨年に続き、記事を精選し、写真を中心としたレイアウトや構成も工夫をした。家庭においては、子どもから情報が上手く伝えられていないという声もあり、今後も SNS を情報発信の中心としつつ、メール配信、広報誌を活用した情報伝達の在り方を考え、より工夫をし、学校での様子が伝わるように取り組んでいきたい。</p>		
教務部	<p>主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>家庭における学習習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① より効果的な授業実践のための教材研究及び学習評価の改善と充実 ② 長期休業中課題などへの取組に向けた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業実践例の共有を促し、充実した学習指導の実践を目指す。現行の観点別評価における問題点を洗い出し、改善を図る。 ② 長期休業中の学習課題に対する計画的な取組や復習を促し、基礎学力の向上や家庭での学習習慣の確立を目指す。
	<p>〔まとめ〕</p> <p>学習指導に関する質問項目については、保護者・教員・生徒とも 9 割前後の肯定的な評価を得た。課題に関する質問項目については、教員・生徒はともに 8～9 割の肯定的な評価を得たが、保護者からの評価は教員・生徒に比べて低く、分からないという回答も多かった。保護者へ情報を伝える方策を検討していく必要があると思われる。</p> <p>今後も、授業内での ICT 機器の活用や長期休業中の課題の在り方について引き続き検討しつつ、学習習慣の確立に向けて、指導を継続していきたい。</p>		

生徒指導部	いじめ防止対策の充実	①全職員による情報交換会の実施 登校指導の実施 ②いじめの定義の確認、いじめ対策委員会の実施	①各学期にある個人面談の結果やアンケート（保健調査）結果を全職員で情報共有を図る。 各学期の始めに行い、長期休業明けの変化に注意する。 ②年度当初にいじめの定義について、年度末には年間の対応結果について全職員へ周知をし、いじめの早期発見や共通理解に努める。
<p>〔まとめ〕</p> <p>いじめ防止対策について、実施している学校側の職員アンケートでは肯定的な意見が100%であったが、生徒アンケートでは肯定的な意見が82%、保護者アンケートでは肯定的な意見が52%となった。さらに保護者アンケートでは分からないが24%もあった。生徒へは式典の時などに伝える機会があるが、保護者に対してどのように伝えれば、取組について知ってもらえるかを今後検討していきたい。</p>			
進路指導部	進路について主体的に考える態度の育成	①3年間を見通した進路行事の計画・実施	①進路講話や模擬試験、補習、面談など生徒の進路目標に応じた行事を実施する。 各学年、教科担任等と連携し、適切な指導を行う。 各種進路行事の実施時期や内容の見直しについて検討を進める。
<p>〔まとめ〕</p> <p>各種進路行事については、昨年度の反省点を踏まえた内容の見直しをしながら実施することができた。各生徒に対する個別の進路指導については、学年会や教科担任等と連携しながら取り組むことができた。学校評価アンケートでは、保護者からは8割、生徒からは9割を超える肯定的な回答を得ることができた。次年度についても、生徒にとってより効果的な進路行事の在り方を検討しながら、小規模校であることの利点を活かした個別最適な進路指導を目指していきたい。</p>			
保健厚生部	清潔で安全な学習生活環境づくり	①清掃活動の充実 ②施設設備の点検整備 ③学校美化活動の推進	①生徒数に配慮した分担区の配置と改修工事等への対応を図る。 ②危険箇所の把握と必要な対応を速やかに行う。 ③ごみゼロ運動の推進と校内美化活動への展開を試行する。
<p>〔まとめ〕</p> <p>生徒の清掃活動への取組と指導する教員の工夫や努力により、引き続き清潔な学校環境を維持することができている。なお、美化清掃活動の様子が保護者に伝わりにくいため、分からないという評価も一定数あった。</p> <p>しかし、生徒数の減少に伴い清掃が毎日実施できなかつたり、学期末の大掃除でも十分できなかつたりする場所もあるため、ごみゼロ運動の見直しを図ることも含めて全校清掃の方法や工夫については引き続き行っていきたい。</p>			

	寮生活の見直しによる新しい寮風土の醸成	①寮規則、寮日課の内容を見直す。 ②寮生が主体的に活動する場面を増やす。	①教員の働きかけによって、寮内での一つひとつの活動が意義あるものとなるように心がける。 ②適切な指導助言を行いつつも、寮生の自主的な判断が生かされるように配慮する。
寮務部	<p>〔まとめ〕</p> <p>規律ある寮生活の実現に関してのアンケート結果は、生徒、教職員ともに肯定的なものであった。寮生の自主的な活動についても、概ね肯定的な反応を得ることができた。本年度は新しい寮風土の醸成を目指して、年度当初に入念にオリエンテーションを行った。実際の規則の運用についても適宜変更を加えることで、寮生も舎監もストレスの少ない寮生活を実現することができた。今後も、前例にとらわれることなく、実情に合わせた寮運営を目指すとともに、寮の設備の改善や環境整備なども進めていきたい。</p>		
	実習を通じた職業観の育成	①農産物の生産、加工、製造、販売等の実習 ②農林産物を用いた研究活動	①専門性を活かしたプロジェクト活動を行い、課題解決に向けた方策を主体的に考えられる指導を行う。 ②生産から販売まで一連の流れを経験させることで達成感が得られ、更なる向上心が育まれる指導を行う。
農場部	<p>〔まとめ〕</p> <p>実習においては、農林産物の生産技術の習得や生産から販売まで一貫した指導を意識し、生産者としての責任感の醸成と達成感の獲得を目指した。また、研究活動では林業に関する課題の設定、解決方法の検討、まとめ、発表までを各専攻単位で取り組ませることで、一人ひとりに課題解決能力と伝える力の育成を目指した。これらの取組がアンケート結果（保護者・生徒から9割の肯定的な意見）に現れたと考える。</p>		
	高校生活への適応と学習習慣の確立	①学校説明（オリエンテーション）の充実 ②基礎学力指導の充実	①生徒が高校生活に適応できるように学校説明を充実させ、適宜面談を行う。 ②生徒が自ら机に向かう習慣を身に付け基礎学力を培えるように支援する。
第1学年	<p>〔まとめ〕</p> <p>「高校生活への適応」「学習習慣の確立」とともに、保護者・生徒・教職員から肯定的な評価であった。高校生活を一層充実させるためにも、進路目標を明確に持たせ、学習習慣確立に向けた継続的な指導が必要と感じている。今後も、生徒が意欲的に学校生活を送ることができるよう、生活指導・学習指導を充実させていきたい。また、総合的な探究の時間での「キャリア教育」を生徒の進路選択に生かせるように活用していきたいと考えている。</p>		

第2学年	<p>具体的な進路目標の決定</p> <p>学校行事や総合的な探究の活動の充実</p>	<p>①補習、模擬試験、資格取得への積極的な参加の呼びかけ 見学旅行をはじめとする校外活動の実施</p> <p>②修学旅行とその事前事後活動の充実</p> <p>③地域課題解決学習の実施 探究活動の内容の精選</p>	<p>①進路指導部と学年会が連携し、充実した進路情報を生徒に提供し、生徒と職員の対話を大切にし、進路に悩む生徒をしっかりと支援をしていく。</p> <p>②総合的な探究の時間やLTなどを有効に活用して、修学旅行の事前事後学習をしっかりと行う。</p> <p>③地域の状況を把握し、その実情に合った課題設定ができ、それらをどのように解決できるかを考える力を育てるよう支援する。</p>
<p>〔まとめ〕</p> <p>「学校は充実した進路情報を生徒に提供し、生徒と職員の対話を大切にした指導・助言をしている」および「学校は地域の課題を見つけ、主体的に解決の方法を考えるよう、適切な指導・助言をしている」という質問に対して、保護者・生徒ともに、両項目とも約8割が肯定的評価、約2割が否定的評価であった。進路に関しては、面談や進路行事等を通して、就職情報や進学情報の提供や対話を行ってきた。また、総合的な探究の時間では、ふるさとの食材や郷土料理(ジビエやお雑煮など)を題材とし、工夫を凝らした取組を行ってきた。しかしながら、これらの取組が生徒や保護者に十分に伝わっていないことが伺える。この結果を真摯に受け止め、今後はこれまで以上に生徒一人ひとりに対して丁寧な情報発信を行い、取組をより身近に感じられるよう努めていきたい。あわせて、生徒の希望する進路の実現につながる指導を充実させるとともに、ふるさについて深く考えることができるような教育活動を、引き続き工夫・改善していきたい。</p>			
第3学年	<p>進路希望の実現</p>	<p>①個に応じた進路指導</p> <p>②社会人として必要とされる知識等の習得の促進</p>	<p>①進路指導部、各教科担任等と連携して生徒一人ひとりの進路希望に対応した指導を行い、進路実現を支援する。</p> <p>②社会人、成人としての自覚を醸成するために、各種教養講座を計画し実施する。</p>
<p>〔まとめ〕</p> <p>個に応じた進路指導についてのアンケート結果は、保護者の評価が1番低かったが、それでも約9割が肯定的な評価であった。生徒の評価は全て肯定的な評価であったため第3学年や進路指導部だけでなく、学校全体で多くの先生に指導していただいた結果だといえる。社会人として必要とされる知識等の習得に関しては、教養講座の実施時期が遅かったこともあり、保護者の肯定的な評価は8割程度となった。生徒の評価はほとんどが肯定的な評価であり、総合的な探究の時間での活動が評価されたと考えられる。</p>			
総合評価	<p>教職員間の意志の疎通や問題意識の共有を通じて、学習指導、生徒指導、進路指導等、個に応じたきめ細かな指導はおおむね達成できた。ただし、生徒はより多様化し、さまざまな問題を抱えている。引き続き個々の生徒の状況を正確に把握し、変化があれば見逃さないようにしていきたい。成果の上がった指導を継続するとともに、新しい課題を教職員が共有することによって、小規模校としての本校の特色を生かし、生徒の指導にあたっていきたい。</p>		